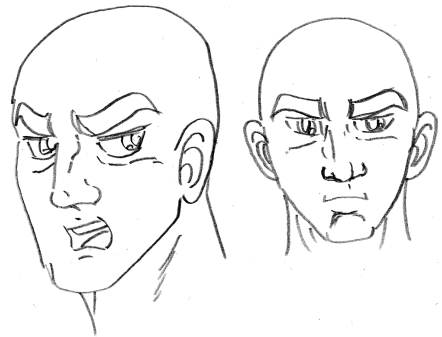


三休むかしばなし 「吸血！恐怖のヒル地獄！」

三休 さん

(主題歌)

ダッシュダッシュダダンダダン
ダッシュダッシュダダンダダン
ダッシュダッシュダダンダダン
きのことりダッシュ
おれはシイタケ食べれないダダッダー
きらいだからまずいと思うからダダッダー
だけどわかるぜきのこのうまみ
だしをとったらうまくなる
必殺パワー ネホリーナブレード
群がるヒルを追っ払う
エアサロタイフーンにおいがするぜ
おれは三休 ようきな三休



三休さ～ん

むかしむかしあるところに三休さんという人がおっての、今度チバキンズが清澄の合同合宿に参加するというのでやってきたのじゃ。なんでもそこはヒルがたくさん出没するところじゃそうでの、いったい、どんなところかのう。ヒルのおそろしさは今まで他人が被害にあった様子を目撃しておるから備えを万全にせねばなるまい。

幸い、三休さんは天空のシロ「フジワラ」在住のシャグマー^{*1}から「ヤマビルファイター」を譲り受けておったからエアサロンパスとともに持っていったのじゃ。

三休さんは合宿地までプレジデント^{*2}の車に乗せてもらって出発したのじゃ。

実は事件は2回あったのじゃ

今回の記事ではプレジデント号の危機と脱出について書いてくれという依頼じゃったが、この事件は実は2回あったのじゃ。まず最初は道中で発生したのじゃ。途中道路横の路頭にきのこが多数発生しておるのを目撃し、それを観察するために道路横に車を寄せたのじゃが、そのとき誤ってぬかるみにはまってしまったのじゃ。

脱出に成功した一行は一路清澄を目指したのじゃ。途中プレジデントからつげ義春の初茸取りとか、作品に登場したのが道沿いに走っている電車だとかいう話を聞き、「くるり」という集落で昼飯を食うことになったのじゃ。駅前にレトロ感たっぷりのアーケード？があつての、その食堂に入ったのじゃ。なんとも味わい深い雰囲気じゃ。

*1 伊勢国の秘境に棲むきのこ仙人。きのこグッズに囲まれて生活している。

*2 チバキンズの世話役。京都のホテル「ホワイハウス」に宿泊したことがある。



今回の観察会の宿泊所を提供してくれた清澄寺

そうこうしておるうちに清澄山に到着じゃ。ここにはお寺があつての、その宿坊が宿舎じゃ。今回の合宿はマッシュキングダム関東支部主催でもあるので、そうそうたるメンバーが参加しておるのじゃ。関東支部の頭領たるミスターハード^{*3}も来ているのじゃ。この寺の周囲の森林が観察フィールドなのじゃが、初日は集合と受付ということで、翌日の観察ルートの下見に出かけたミスターハードらが戻ってくると、なんと、脚にいくつかの小さなうごめくヒルが付いておるではないか。ヒルを付けたまま宿舎に入ってくるとはなんと大胆なことよ。下に落としたヒルがまだ動いておったのでそれを見た三休さんはエアサロタイフーンをお見舞いしたのじゃ。

チバキンズからは他にニンジャライダー^{*4}やスプリングマム^{*5}らも参加しており実に楽しいメンバーじゃ。明日が楽しみじゃのう。

今日はヒルの活動には好条件の天候じゃさて、翌日になっていよいよ観察会本番じゃ。三休さんは上下のレインウェアを着込ん

で防寒用厚手靴下をはいて、長靴にはヤマビルファイターを振りかけたのじゃ。さらに足下にエアサロタイフーンをかけるのじゃが、参加者みんなが宿舎の玄関口で吹き付けるものじゃから、においがすごくてこっちがむせかえるのう。とりあえず準備を整えて出発じゃ。しかし今日は朝から雨がぱらついておってヒルの活動には好条件の天候じゃ。これでは落ち着いて撮影ができんのう。ほとんどの参加者は歩いて観察コースを巡るのじゃが、プレジデント号に乗り込んだ三休さんやニンジャライダー、スプリングマムらはちょっとちがったコースに行ってみることにしたのじゃ。くれぐれもドリンクイーン^{*6}は知らない知られちゃいけない。

我輩はちょっと心配じゃったのじゃ

林道を進むプレジデント号じゃったが、この雨で地盤がゆるんで所々で土砂崩れが起こっておったのじゃ。そして、上から崩れてきた土砂や倒木が道をほぼ完全に塞いでいる場所にたどり着いたのじゃが、ここで下したプレジデントの決断は「ゴー」じゃった。三休さんはちょっと心配じゃったのじゃが、その予感の的中したのじゃ。土砂の上を乗り越えようとした車は見事に乗り上げた状態で止まってしまったのじゃ。見ると、ちょうど車の底が岩の上に乗っかってしまい、両輪が空中に浮いている状態じゃ。これでは進むことも引くこともできんのう。人力で動かすこともままならぬ。このままでは動けずに日が暮れてしまうおそれもある。そこでプレジデントは演習林の管理者に連絡し、助けを乞うたの

*3 硬質菌の権威。国内研究者の中核機関マッシュキングダム幹部。

*4 バイクやスタジオカーできのこを求めて走り回り白バック撮影に定評がある。きのこを使ったパスタを作る。記念撮影時に高い所に登る。

*5 フリーのライターで雑誌記事やきのこ図鑑を執筆する。名の由来はスプリングクリサンテマム（春菊）から。

*6 仙台藩在住。精力的に各地に出かけ、主にラマリアを調べる。大変タフで朝までオールオッケー。

じゃ。

助けが来るまでその場で待っておる一行じやったが、ここはまさにヒルの巣窟。じっとしているといつ襲われるかわからぬ。ふと足下を見ると、案の定ヒルが長靴をよじ登っておるではないか。

「エアサロタイフーン！」

噴射を受けたヒルはまるまって落ちてしまうのじゃ。しかしこれも一時のことで、次々と登ってくるヒルに噴射せねばならぬのじゃ。三休さんはとどめの一撃

「虫除けハリケーン！」

これだとヒルを倒すことができるのじゃ。さらに落ちたヒルに対して非情の一撃

「ネホリーナブレード！」

しかしこれではきりが無いのじゃ。このままではその場で足を交互に上げて足踏み行進しなければならぬ。そこで三休さんは自分を中心に、円を描くようにエアサロタイフーンを噴射してバリヤーを作ったのじゃ。

頼もしき援軍がトラクターで

そうこうしておるうちに頼もしき援軍がトラクターに乗ってやってきたのじゃ。車のまわりに堆積しておる土砂は取り除かれたのじゃが、問題は下の岩じゃ。車は大きな岩の上に乗った状態になっておるので、それを破壊せねば脱出できんのじゃ。三休さんらはトラクターが持ってきたツルハシやハンマーで岩をたたいたのじゃ。ここでの恐怖は、作業に労力を傾けなくてはならない一方いつヒルに襲われるかわからぬことじゃった。万全の備えをしておるとはいえ油断はならぬ。三休さんは作業の合間に一息いれようと軍手をとった瞬間、恐るべき光景を目にしたのじゃ。なんと、手に黒い丸っこい物体がとりついておるではないか！それは手に吸い付いたヒルではないか！驚くべき事に、いつのまにか手についたヒルが軍手の縫い目から入り込んでおったのじゃ。あわてた三休さんは、自



土砂中の岩に乗り上げ立ち往生した「プレジデント号」

分の手にエアサロタイフーンを噴射してヒルを落としたのじゃ。これが三休さんにとってははじめてのヒル体験じゃった。人の話ではヒルに食いつかれると血が止まらぬというが、そのときの三休さんの傷はすぐふさがったのじゃ。まったく恐るべきヒルじゃ。

ヒル地獄からの脱出で1日が

ようやく車がのった岩を砕き、動かすことができるようになったので、一行は管理棟へと立ち寄ったのじゃ。そこで昼飯を食べて休憩すると、もう観察会の時間が終わりに近づいておったのじゃ。そこで同定会場まで引き返すことになったのじゃ、とうとうきのこ探しはせずにヒル地獄からの脱出で1日が終わってしまったのじゃ。なんということよ。同定会場「だった」場所へ行くとすでに終わってだれもおらんのだのじゃ。さらに三休さんは今日のうちに帰らねばならぬので、あわただしく荷物をまとめてバス停に向かい、バスで麓の駅まで降りたのじゃ。なんともローカル色の強い駅から電車に乗って長い道のりを帰っていったのじゃ。それにしても今まで人の話を聞いていただけのヒルの恐怖を味わうことになるのはもう。